

令和6年度 3学期 学校経営方針

西海市立大崎中学校

「有終の美」を飾る

1年を締めくくる集大成となる学期である。まずは3年生の進路実現に向けて、最大限の指導と支援を行い、胸を張って卒業させたい。また、1・2年生は、生徒会の引継ぎを大きなきっかけとして、学校を担う「思い」と「力」を高めていく。

いずれの学年においても、「生活習慣の確立」「学力の向上」「不登校」など、課題の解決や改善に力を尽くすことが必要であるが、一方で、本校生徒の「強み」を生かす「積極的な視点」も極めて重要である。「共に創る力を磨く！大崎」を目指したこれまでの取組を通して、子供たちと教職員が築き上げてきた「たゆまぬ努力」と「確かな歩み」が形となり、着実に前進を続けている。また、学校行事の充実は、子供たちの成長のための力となり、見る人にも大きな感動を与えてきた。さらに、授業改善や学習コンテストの実施などにより、学びに向かう雰囲気が醸成されてきている。

これらの変容や頑張りを認め、子供たち一人一人の自信と誇りを高めるとともに、我々教職員の営みにも手応えを感じながら、「有終の美」を目指し、3学期の教育活動に邁進していかなければならない。

また、次年度に向けての準備を計画的に進め、引継ぎ事項について共有化していくため、今年度のデータ等の整理を着実に進めていく必要がある。

我々は、苦楽を共にする仲間。互いに尊敬し合い、磨き合い、支え合いながら、信頼の絆に結ばれた連帯感のあるチーム大崎を目指し、力を携えながら前進していきましょう。

1 教育方針

日本国憲法・教育基本法並びに長崎県及び西海市の教育方針に則り、職員の和と秩序をもって経営の中心となし、常に教育者としての使命感に徹し、教職員としての識見と指導力を高めるとともに、家庭・地域社会との連携を密にし、徳・知・体の調和のとれた、たくましく人間性豊かな大崎中学校生徒の育成を目指し、活力ある学校の創造と望ましい校風の樹立を図る。

2 校訓 「夢 志 学」

3 学校教育目標

【学校教育目標】

自ら「求めて、学び、磨く」生徒の育成

目指す学校像

- ◇明るく活気に満ちた学校
- ◇学力の向上を目指す学校
- ◇地域と共に歩む学校

目指す生徒像

- ◇夢や志の実現のために高め合う生徒
- ◇意欲を持ち、粘り強く、学び合う生徒
- ◇健やかでたくましい心身を磨き合う生徒

目指す職員像

- ◇生徒への愛情あふれる職員
- ◇自らを高める職員
- ◇心身ともに健康で人間性豊かな職員

【学校スローガン】

共に創る力を磨く！大崎

～心力・学力・体力の向上を目指して～

- 「共に創る力」：共に課題を解決し、学び、新たに創る力
- 「心力」：自他を大切にし、思いやりと温もりのある心を高める力
- 「学力」：目標を掲げ、主体的に学ぶことができる力
- 「体力」：心身ともに最後まで粘り強くやり抜く力

4 本年度の重点努力事項

本校の教育活動を意図的、計画的、組織的に推進していくため、以下に示す重点努力事項を設定する。この重点努力事項は日々の授業・学校行事等の全ての教育活動並びに家庭や地域社会との連携等を通して具現化するものであり、各分掌において、具体的な手立てを企画・立案する。

【重点努力事項】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 豊かな心力の向上 | 4 生徒理解に基づく適切な指導 |
| 2 確かな学力の向上 | 5 信頼される学校づくり |
| 3 心身の保持増進と体力の向上 | 6 連帯感のあるチームづくり |

1 豊かな心力の向上を目指すために

【課題と求められる取組】

●道徳科の授業改善→校内研修で指導方法を共有する。

・導入の工夫・分かりやすい中心的な発問、補助発問の設定・対話や議論する時間の設定・自分事として捉えるために「自分の考えを書く」時間の設定・ICTの効果的な活用

●生徒の良さを捉える「新たな発見探し」→係活動や道徳科授業等の取組を通して見られる頑張りや変容について、掲示や通信で紹介・発信する。

学校評価

- ・「命の大切さや思いやりの心を育てる努力をしている」(12月 生 96.7% 保 88.3% 教 100%)
(7月 生 95.5% 保 98% 教 100%)
- ・「生徒は感謝の気持ちを伝えている」(12月 生 96.8% 保 88.3% 教 91.7%)
(7月 生 91.9% 保 90.8% 教 92.9%)

●生徒会活動の自主活動の伸長→生徒自ら実践し、手応えを感じる活動を仕組む。

「あいさつ」「笑顔」「校歌」が輝く集団づくり、清掃、バスマナー、敬語、履き物をそろえる等

学校評価

- 「係活動や生徒会活動によく取り組んでいる」(12月 生 90.3% 教 100%)
(7月 生 96.6% 教 85.7%)
- 「誰にでも気持ちの良いあいさつをしている」(12月 生 83.7% 保 80.9% 教 58.3%)
(7月 生 82.8% 保 81.5% 教 57.1%)
- 「校歌を大きな声で歌っている」(12月 生 80.4% 教 91.7%) (7月生 74.7% 教 64.3%)
- 「学校や社会のルールやマナーを守って行動している」(12月 生 94.5% 保 90.4% 教 83.3%)
(7月 生 94.3% 保 95.9% 教 85.7%)
- 「掃除によく取り組んでいる」(12月 生 95.7% 教 83.4%) (7月 生 92% 教 78.6%)
- 「スリッパや靴並べができています」(12月 生 82.6% 教 75.0%) (7月 生 78.2% 教 86%)

●学校行事を通した学年・学級づくり→ゴールを目指した活動にする。

各行事(卒業式等)の成功に向けて、事前の目標、取組過程での課題解決、事後の達成度・振り返りを明確にする。キャリア・パスポートの活用、一人一役や縦割り活動の工夫。

学校評価

「行事や総合学習によく取り組んでいますか」(12月 生 94.5% 教 100%) (7月 生 92% 教 100%)

●進路指導の充実・キャリア教育の推進→「体験学習」「人との出会い」「キャリア・カウンセリング(個別、グループ別の指導支援)の充実

西海市学習の様子アンケート

「将来の夢(行きたい高校や大人になったらやってみたい仕事)は決まっていますか」
(1年 60% 2年 60% 3年 74%) (次回目標値(市) 1年 70% 2年 70% 3年 80%)

(1) 道徳の授業を中心とした、思いやりと温もりのある心の教育の充実

- ①「考え、議論する道徳」の授業を行い、全職員で関わりを持つ。
- ②ICTを効果的に活用し、研修を重ねながら授業改善を図る。

(2) 人権教育の推進

- ①人権学習、平和学習の充実を目指す。
- ②「平和は日常から」をキーワードに、人権感覚の育成を図る。

(3) 生徒の自主的活動の推進

- ①生徒会活動及び人権・平和委員会活動の活性化を図る。
- ②さわやかな挨拶を意識し、胸を張って校歌を歌う生徒の育成を図る。

(4) 進路指導の充実・キャリア教育の推進

- 多くの人との出会いを通じてキャリア教育を推進し、「自己肯定感」、「学ぶ意義」、「働く意義」への自覚を高め、進路指導の充実を図る。

(5) 特別支援教育の充実

- ①特別支援学級における学習指導の充実を図る。
- ②通常学級に在籍する支援・配慮を要する生徒に対する支援体制の充実を図る。

2 確かな学力の向上を目指して

【課題と求められる取組】

- 「分かる授業」「鍛える授業」「楽しい授業」→「大崎スタイル」の確立と共通実践事項の徹底を図る。

- ・学習規律の徹底・前時の授業内容の振り返り・導入の工夫・「めあて」と「まとめ」の明示
- ・ペア・グループ活動での対話、基礎・基本となるキーワードや大切なポイントの整理
- ・「書く」時間の設定・言語活動の設定・ICTの効果的な活用（eライブラリ、ロイロノート）

学校評価

「授業は分かりやすい」（12月 生 92.4%）（7月 生 88.5%）

「教材研究や分かる授業づくりに努めている」（12月・7月 教 100%）

「授業によく取り組んでいる」（12月 生 87%、教 83.3%）（7月 生 90.8%、教 85.7%）

「2分前着席・1分前黙想ができています」（12月 生 82.6%、教 50%）（7月 生 90.8%、教 85.7%）

西海市学習の様子アンケート

「授業中や家庭でeライブラリをどれくらい使っていますか」（1年 34% 2年 24% 3年 64%）

（次回目標値（市）1年 30% 2年 30% 3年 30%）

- 定期テスト、実力テストの見直し→県や国が求める「思考力・判断力・表現力」問題を出題する。
- ・過去の県や全国学力調査問題を利活用
- 1月西海市学力調査の結果分析→次年度4月県・全国学力調査に向けた対策を講じる。
- 高校との連携→特に数学科において、高校と連携し、授業改善や補充的な学習等の共有化を図る。
- 学力向上に結びつく学習方法の丁寧な個別指導→教育相談等
- 家庭学習の質・量の向上→毎日出題する。自己調整力を身に付けさせる。

学校評価

「家庭学習の習慣が身に付いている」（12月 生 70.7%、保 58.5%、教 66.6%）

（7月 生 63.2%、保 60.8%、教 28.6%）

西海市学習の様子アンケート

「平日毎日家庭学習をしている」(1年 17% 2年 24% 3年 62%)

(次回目標値(市) 1年 50% 2年 50% 3年 50%)

「平日2時間以上家庭学習している」(1年 11% 2年 8% 3年 46%)

(次回目標値(市) 1年 30% 2年 30% 3年 50%)

「休日3時間以上家庭学習をしている」(1年 9% 2年 4% 3年 36%)

(次回目標値(市) 1年 20% 2年 20% 3年 45%)

「平日学校から毎日宿題は出されている」(1年 17% 2年 32% 3年 51%)

(次回目標値(市) 1年 60% 2年 40% 3年 70%)

「家庭学習をするときに、自分で計画を立てて学習している」(1年 9% 2年 12% 3年 46%)

(次回目標値(市) 1年 40% 2年 40% 3年 40%)

●朝学習の効果的な活用→読書・新聞等・教科補充学習(AIドリル等)、コンテストの練習・実施

西海市学習の様子アンケート

「平日30分以上読書をしている」(1年 20% 2年 36% 3年 26%)

(次回目標値(市) 1年 30% 2年 35% 3年 35%)

(1)「できた」「分かった」の笑顔あふれる授業の構築

やさしく【シンプルな発問・説明・指示】、深く【基礎・基本の定着から応用「思考力・判断力・表現力の育成」へ】、生徒が自ら学びに向かう【自ら学ぶ意欲や主体的に学習に取り組む態度の育成】授業を仕組む。

(2)各種学力調査の検証と分析

○全国学力・学習状況調査をはじめ各種学力調査の問題は、今、求められる学力と捉え、その育成に向けて努力する。また、学力調査の結果から、課題をとおり、どのような手立てが有効・必要なかを検証し、「学力向上アクションプラン」を改善・確立し、徹底して指導し、確かな学力の育成を図る。

(3)校内研究・研修の充実

- ①対話する場面を仕組み、生徒がいまいきと語る力・自分の考えや思いを書ける力を育む。
- ②全ての教科等を通して、「共通実践事項」の徹底。
- ③基礎・基本の定着から応用へつなぐ「確認テスト」の実施 ※AIドリル等
・理由を示しながら自分の考えを「書くこと」、与えられたテーマについて「まとまりのある文章を書くこと」、資料やデータについて「相手に分かりやすく説明する力」を鍛える効果的な取組について全職員で共有し合う。

(4)読書活動の充実

- ①「読書の時間」で意図ある指導を行い、自ら読書に親しむ姿勢と読書力を育てる。
読書推進のための取組(環境整備・競い合い等)を行う。

②学年相応の読む力（読解力）を育むために、個に応じた図書の選び方と読み方の指導をする。学校図書館司書との連携を密に図る。

③朝の読書タイムの内容に工夫を凝らし、新聞の活用を図る。

新聞の活用を通して、語彙力をはじめ読解力の向上につなげる。単元によっては、授業の中で記事を取り上げ、生徒に関心を持たせる。

(5)家庭学習の充実・習慣化

①家庭学習(宿題・自主学習等)の時間を確保させ、丁寧な学習を行う習慣を身に付けさせる。AIドリルを効果的に活用する。

②各教科で時間や内容のバランスをとり、eライブラリでの配信を行う。

③基礎・基本の定着を図る課題や自主学習に取り組みさせるよう指導する。

3 心身の保持増進と体力の向上を目指して

【課題と求められる取組】

●「基本的な生活習慣の確立」→ メディアルールを含め、保健教育、食育指導のさらなる強化を。

●体育・部活動等のスポーツ活動を通して、心と身体の体力向上を図る。

●教室環境整備→安心で安全に配慮された環境をつくる。

美しい教室、廊下環境の整備、ロッカーの整理・整頓、掲示物の点検
整った職員室づくり【率先垂範】

学校評価

「情報端末やインターネット利用のルールを守っている」

(12月 生 94.6%、保 57.5%、教 58.3%) (7月 生 85%、保 68.1%、教 43%)

「衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている」 (12月 生 93.5%、保 93.6%、教 100%)
(7月 生 96.5%、保 98%、教 85.7%)

「食に関する教育活動を行っている」 (12月 生 94.6%、保 93.6%、教 100%)
(7月 生 95.4%、保 96.9%、教 100%)

「体育・スポーツ活動を通して、健康の保持と体力の向上が図られている」

(12月 生 91.3%、保 94.7%、教 100%) (7月 生 88.5%、保 95.9%、教 100%)

「早寝・早起き・朝ごはん（基本的な生活習慣）が身に付いている」

(12月 生 78.3%、保 76.6%、教 75%) (7月 生 74.7%、保 78.3%、教 64.2%)

(1) 自他の命を大切に、他人を思いやる心を育てる指導の徹底

○全職員が常に危機管理意識を持ち、特にけが・病気等については未然に防止する指導と計画的、継続的に安全教育を推進する。

(2) 保健教育・食育の推進

①衛生的習慣（手洗い・うがい・歯磨き等）の定着を図り、保健意識を高める保健教育を推進する。

②生徒の健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図るため、魅力ある食育推進活動を行う。

(3) 教育環境が整備された気持ちの良い学校

- ①美しい教室、美しい職員室。そこに生活する者の心が現れる環境をつくり出す。
- ②掲示教育・放送教育の充実
- ③美化指導・清掃指導と整理整頓の徹底
- ④校舎内外の施設・設備等の充実

(4) 部活動の充実と活性化

○「人間性等の涵養」を目指し、心身ともにたくましい生徒や情操豊かな生徒を育む。

4 生徒理解に基づく適切な指導を目指して

【課題と求められる取組】

●不登校・不登校傾向生徒に対する働きかけの継続と強化

学校から家庭へ働きかけを継続・強化し、現状を動かしていく。学校と家庭の役割を明確化、担任を支える体制づくりと関係機関等との連携・情報共有、学力の保障に向けた取組を推進

●いじめ、登校渋りの早期発見と早期対応

子供の変化を早期に共有・迅速な対応（定期的な悩み調査・教育相談）、気になる生徒の欠席3日目家庭訪問等の実施

●C4th「いいところみつけ」の活用

一日一回（一人）の入力を目標とし、閲覧を心掛ける。所属学年の生徒のみにこだわらない。

学校評価

「学校は明るく楽しい雰囲気である」（12月 生 98.9%、保 95.8%、教 100%）
（7月 生 96.6%、保 96.9%、教 100%）

「学校は生徒の悩みや相談に親身に対応している」（12月 生 89.1%、保 92.5%、教 100%）
（7月 生 88.5%、保 93.8%、教 100%）

「学校は厳しさと温かさのある指導に努力している」（12月 生 97.8%、保 90.4%、教 100%）
（7月 生 94.3%、保 93.8%、教 100%）

「家庭では学校のことや将来のことを話し合ったり、自分の悩みを相談したりしている」
（12月 生 80.5%、保 87.2%）（7月 生 77%、保 85.6%）

(1) 生徒指導の充実を図り、心身ともに心豊かでたくましい生徒の育成

- ①基本的な生活習慣や社会的規範を身に付けさせる。
 - ・小さな乱れを正す指導の励行と職員間の連携
 - ・問題行動を防ぐための取組：「情報モラル教育」等の充実
- ②生徒会活動と連携し、明るい挨拶、校歌の元気な歌声、マナー等を推進する。
- ③「不登校」や「いじめ」を生まない集団づくりに努める。
 - ・一人一人の生徒への声掛けや目配りと小さな変化を見逃さない感性を磨く。

(2) 学年・学級経営の充実

- ①生徒相互、生徒と教師の好ましい人間関係づくりに努める。
- ②学校行事や学級活動を通じて、助け合い、支え合う学級（学校）づくりに努める。
- ③基本的な生活習慣と集団生活の基本行動の定着を図る。
- ④リーダーを育成し、自主的な活動を活発にする。
- ⑤学校の一員としての存在感や責任の自覚を高める。

(3) 全職員での共通理解（些細なことでも「見抜く・見落とさない・見届ける眼力をもつ。」）

○報告・連絡・相談を密に確実にやり、組織的に指導にあたる。

C4th「いいところみつけ」を活用し、「気づき」を入力し、データ化する。
教育相談、通知表、指導要録、学級通信等に活用していく。

5 信頼される学校づくり

【課題と求められる取組】

- 保護者との信頼関係づくり→子供への指導や対応後は、機会を逃さず、保護者へ現況や様子を伝える。また、保護者には、今後の対策（道筋）を一方的ではなく一緒に考え立てる。「どうしたいか」、「どうしてほしいか」、「何が必要か」を尋ね、寄り添う姿勢を示す。保護者への連絡前は、管理職、学年主任に報告相談し、一人に対応しないこと。

学校評価

「学校は保護者からの悩みや相談に親身に対応している」（12月 保 95.8%、教 100%）
（7月 保 98%、教 100%）

「学校の教育方針が理解できる」（12月 生 90.2%、保 95.8%、教 100%）
（7月 生 88.6%、保 96.9%、教 100%）

「学校は各種通信・電話等で学校や生徒の様子等を保護者に知らせている」
（12月 保 91.5%、教 100%）
（7月 保 97.9%、教 100%）

(1) 保護者・地域との連携強化、信頼関係の構築

- ①学校だより、学級だより、ホームページの内容を充実し、保護者・地域等への積極的な情報発信を図る。
- ②保護者の意向や家庭の状況を理解し受け止めながら、共通理解の上に立った適切な対応ができる体制を確立・保持する。一人に対応しない。安易に返答・了解をしない。管理職に報告相談する。

(2) 保護者への親身な対応

我が子だったらどう感じるか、保護者の身になって考え、親身な対応をする。生徒の成長した姿や頑張りを積極的に伝え、保護者の学校への信頼を高める。

保護者・地域の方とのコミュニケーションを大切にする。3K【敬意・謙虚・感謝】を意識する。

6 連帯感のあるチームづくり

【課題と求められる取組】

- 以下の3点について、PDCA サイクルを図っていく。
「校務分掌は責任体制が明確で適切に機能しているか」
「校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進しているか」
「自ら担当する業務を計画的かつ他の職員と連携し遂行しているか」
- 指導記録簿等の活用→TO DO リスト・先を見通した業務内容の明記と業務効率化の推進

● C4th の運用について

- ・ 出勤後、空き時間や退校前に必ず開く。「文書連絡」、「個人連絡」で送信された提出文書を確認する。
- ・ 「予定表」への年休等、出張、来校者の入力を確実にを行う。

(1) 同僚性の醸成

服務規律推進委員会を定期的に実施し、不祥事に対する教職員の意識を高め、同僚性を醸成する。

(2) 働き方改革の推進

安全衛生推進委員会を定期的に開き、ボトムアップでの働き方改革を図る。職場環境アンケートの実施

(3) 仲間と連帯感を持てる職場づくり

教師にとって、「こんな仲間と働けて良かった」と互いに尊敬し合えるチームを目指す。

環境が人を育てる

「環境が人を育てる」とは、過ごす環境や場所がその人に与える影響は大きいことを表している言葉である。「人が環境をつくり、環境が人をつくる」という言葉もある。教職員が互いに気持ちの良い挨拶を交わし、優しい声掛けや感謝の言葉を伝え合い、何事にも凡事徹底する姿勢を習慣化することで、明るく活気のある職場環境がつくられていく。そして、その環境を目にし、感じ取った子供たちにもプラスの波及効果を生み出していく。連帯感のあるチームとして、節度・目配り・気配りを大切にし、「人を育てる」使命感と「やりがいのある」職場風土を醸成していきましょう。

5 大崎地区中高一貫教育の全体像

① 基本理念・目的

豊かな自然に恵まれた環境の中で、生徒一人一人の個性や可能性の伸長を図り、確かな学力の定着を目指すとともに、ふるさと大島・崎戸を愛し誇りを持つことができる人間を育成する。

② 基本方策と育てたい生徒像

・ 規律ある学習習慣のもとに強い意識をもって学び、基礎的・基本的な知識・技能とそれを活用できる能力を身につけ、社会の変化に対応して主体的に生きていくことができる生徒

・ 体験学習等を通して、地域の伝統文化にふれ、働くことの意義を理解し、自立した社会人・職業人として、郷土への愛情と誇りをもって地域の発展に貢献できる生徒

・ 規範意識や公正な判断力、思いやりの心や豊かな感性をもち、責任感や自立の精神にあふれ、進んで社会を担って生きていくことができる生徒

③ 中学・高校連携の柱

【確かな学力の育成】 学力向上部会	【郷土愛・勤労観の育成】 総合学習・探究部会	【健全な心身の育成】 特別活動部会
<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年間を見通した一貫教育のきめ細かな指導による基礎学力の向上 ○ 乗り入れ授業、T・T、公開授業による指導力の向上 ○ 各種検定の実施（漢検等） ○ 進路に応じた柔軟な教育課程の編成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習・探究の時間で大崎地区についての理解と研究 ○ 発達段階に応じた職業観、勤労観の育成 ○ 有効で機能的な職業体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校則やマナーについての共通指導 ○ 特別支援教育 ○ 部活動交流による集団行動及び基礎技術の向上 ○ 学校行事や地域行事での活動交流
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互授業参観の充実 ・ 基礎学力の向上 ・ 各種検定の実施（漢検等） ・ 乗り入れ授業、T・T 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事における連携 ・ キャリア教育 ・ 進路シンポジウム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校則やマナーの共通指導 ・ 生徒会交流 ・ 部活動の連携